

条件反射制御法（CRCT）は、第1ステージから第3ステージで集中的に治療を行って、やめられない行動や不快な自律神経症状や気分を生じさせる神経活動を制御できるようにし、その後、第4ステージの維持ステージでは、効果を維持するために作業量を減らして治療作業を長期に継続することを基本とします。

維持ステージでの作業を怠れば、不適切な行動や不愉快な自律神経症状と気分を引き起こす神経活動が回復し、せっかく行った当初の集中的な治療の効果を損なう可能性が高くなります。

CRCTの当初にある集中的な治療を行う施設は、それらのステージを経た患者さんが他の施設に移る場合は、その患者さんが維持ステージでの作業を継続するために、移る先の施設でも必要な観察と指導が提供されるようはたらきかけます。

CRCTを行う回復支援施設やカウンセリングルームは、CRCTの集中的な治療をする施設から患者を受け入れ、各施設の特性を活かした働きかけに加えて、CRCTに関しては維持作業のみを行う施設があります。

回復支援施設やカウンセリングルームの一部はCRCTにより深く関わり、初めて治療にかかわった患者さんに対してもCRCTの第1ステージで行う制御刺激と良かったことの書き出しを開始し、その後、必要に応じて、欲求が高まる第2ステージと第3ステージの治療作業に関してはCRCTを集中的に行う精神科医療施設に委ね、それらのステージを終えた後、患者さんを再び受け入れ、維持ステージでの作業を継続して、効果を保ちます。

やめられない行動や不快な自律神経症状や気分苦しむ患者さんを治し、治った状態を支えられるように、CRCT実施施設を増やしています。